

いただきます



宝物のような言葉



ごちそうさま

俳優の高倉健さんが亡くなりました。座右の銘は「往く道は精進にして、忍びて終わり悔いなし」だったそうです。比叡山延暦寺の大阿闍梨、酒井雄哉さんから贈られたものとか。

その意味は、「さまざまな苦難にあってもよく堪え忍び、精進して最後に後悔しない」というものですが、実はそれは「讃仏偈（『仏説無量寿経』）」の終わりにある「我行精進忍終不悔（わが行、精進にして忍びてついに悔くいじ）」が元の言葉です。

私にとって身近な浄土真宗の聖典の言葉ですが、高倉健さんはそんなふう大切に思って生きておられたんだということを知り、嬉しく感じるとともに、適当に読み飛ばしていた自分を恥ずかしく思ったことでした。

せつかくのご縁なので、皆さんもどうぞご覧になってみて下さい。『真宗勤行集（百華苑）』の79頁にあります。もしかしたら、みなさんの人生を支える深い言葉に出遇えるかもしれません。

もったいない



話変わって、このたびのご講師真城先生は、「私たちは、たくさんの命をいただき、それらが私の命になってくださっている。私が地獄に堕ちると、たくさんの命も地獄へ墮とすこととなります。」とお話下さいました。

それで思い出したのですが、親鸞さまのお弟子のメモに、

「人、羊を食し、羊死して人となり、人死して羊となる。」「人死して還って十方の草木となる」「十方の草木、人と異なることなし」（顕智『聞書』）

とあります。私は羊や草木の命をいただいて生きていて、私の命は草の命でもあり羊の命でもある。そして死んだら草木となり羊の命となる。実は、草木や羊の命は私の命と同じなのだということです。親鸞さまやお弟子たちは、こんなことを思いながら暮らしておられたんですね。

高倉健さんや真城先生のご縁をいただいて、「私は、宝物のような言葉を目の前にして、つくづく何も考えずに生きているなあ」と思うことです。

ありがとう・ごめんなさい

【食前のことば】
多くのいのちと、みなさまのおかげにより、
このごちそうをめぐまれました。
深くご恩を喜び、ありがたくいただきます。

合掌

【食後のことば】
尊いおめぐみをおいしくいただき、
ますますご恩報謝につとめます。
おかげで、ごちそうさまでした。

※食中毒防止のため、本日中にお召し上がり下さい。

西教寺進徳仏教婦人会
私たちといっしょにお聴聞しましょう